

社馬連 17 第 23 号
平成 29 年 8 月 9 日

会員団体各位

日本社会人団体馬術連盟
会長 山口 昇
(担当 普及委員会)

多摩川乗馬会ボランティアの参加者募集について

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。標記の件について、下記の通り募集いたしますのでお知らせします。

日本社会人団体馬術連盟では、これまでも各種の競技会、講習会、野外騎乗、馬術セミナー等々多数の事業を実施してまいりましたが、この度新たに社会貢献事業として、NPO 法人福祉ネット「ナナの家」による交流事業「多摩川乗馬会」の趣旨に賛同し、本乗馬会での馬を通したボランティア活動に取り組んでいくことといたしました。初年度となる今年は、年に 2 回の参加を予定しており、今回はその 1 回目となります。

多摩川乗馬会は、福祉ネット「ナナの家」により”障がい者と一緒に乗馬！”を合い言葉に、1999 年から開催されている乗馬会です（詳細は別紙をご参照ください）。ひき馬、障がい者乗馬の他に、ふれあい動物園、ミニ屋台、キッズのためのプレイコーナー等が取り入れられており、今では多い時で 1 日のひき馬騎乗者が 200 名を数える、地域に根付いたイベントとなってきました。乗馬のシステムは、イギリスやオーストラリアで行われている RDA 方式を応用し、馬、馬場責任者、リーダー、サイドウォーカーの協力で行われています。

ボランティアの内容としては、ひき馬に関連する作業を中心に、通常 3 頭の本馬により行われるひき馬のひき手の他、騎乗者の補助のため馬の両脇を歩くサイドウォーカーや、ヘルメットの貸し出し、アンケート実施等になります（撤収作業も含まれます）。ボランティアは初めてという方も、沢山のご参加をお待ちしております。

記

1. 開催日時：平成 29 年 10 月 1 日(日)
9:00 現地集合（会場設営から参加可能な方は 7:00 にご集合下さい）
※午前のみ、午後のみ参加でも先方の受入れ対応可能です。申込書に記載して下さい。
2. 開催場所：多摩川河川敷
※交通 【電車利用】 小田急線と泉多摩川駅より徒歩約 10 分
(参加希望の方には詳細をご連絡します)
3. 参加資格：特に規定はありませんが、ひき馬のひき手には乗馬の経験が必要なため、申込書をお持ちのグレード等をご記入下さい。ご家族、友人等での参加も可能です。
※参加者に対しては、福祉ネット「ナナの家」がボランティア保険の登録を行います。

4. 申込方法：添付の申込書を、電子メールまたは FAX にてご送付願います。
※不達の場合がありますので事務局への電話確認も併せて願います。

5. 申込締切：平成 29 年 9 月 18 日(月) 必着

6. お問い合わせ先：日本社会人団体馬術連盟 事務局

E-mail: shabaren@jbg.jp TEL: 03-3297-5630 FAX: 03-3297-5636

締切後、参加者には別途、担当より詳細メールをいたします。

■ 当日のスケジュール(予定)

6：45 スタッフ集合

7：00 ボランティア集合／挨拶・打ち合わせ／設営＜可能な方はこの時間からスタート＞

8：30 動物の到着／動物のケア

9：00 部署打ち合わせ ＜通常はこの時間からスタート＞

9：45 受付開始

10：00 午前の乗馬会

12：00 昼食～お昼のライブ～ ＜午後からの方は、この時間帯に打合せ＞

13：00 午後の乗馬会

15：00 ボランティアの馬上研修

15：30 片付け

16：30 全体挨拶

◎ 昼食は支給されます(カレーもしくはハヤシライス)

◎ 保険証を忘れずご持参下さい

◎ 希望される方には、福祉ネット「ナナの家」よりボランティア活動証明書が発行されます



<乗馬会開催風景>

■ 参考 福祉ネット「ナナの家」ホームページ <http://www006.upp.so-net.ne.jp/net7/>

■ 多摩川乗馬会について（平成 29 年度事業企画書より抜粋）

日時	平成 29 年	4 月 16 日（日）	10：00～15：00
		5 月 14 日（日）	10：00～15：00
		10 月 1 日（日）	10：00～15：30
	平成 30 年	3 月 18 日（日）	10：00～15：00
主催	NPO 法人バリアフリーセンター・福祉ネット「ナナの家」		
協力	紅葉台木曾馬牧場、福田牧場、長野県「わら馬会」、甲州和式馬術探究会 うたの居酒屋バンド、きんたの会		
後援	狛江市、狛江市教育委員会、狛江市社会福祉協議会		

福祉ネット「ナナの家」では、「障がい者と一緒に乗馬！」を合い言葉に、1999年から交流事業・多摩川乗馬会の活動を重ねてきました。平成29年度の多摩川乗馬会は、75回からのスタートとなります。

誰もが自然が豊かな多摩川で乗馬を楽しむためには、障がい者が安全に楽しく乗馬できることが必要です。そのため障がい者乗馬インストラクターが中心となり、乗馬グッズや課題など、さまざまな工夫を凝らしてきました。そこには提携先の障がい者乗馬先進国オーストラリア NSW にあるミッチェルセンターのノウハウも沢山生かされています。中でも海外の「マウンテンランプ(騎乗台)」は数年にわたる懸案事項でしたが、数年前大勢の知恵を結集され、多摩川に相応しい「移動マウンテンランプ」が作成されました。これで小さなお子さんや障害を持つ人たちも、安心して騎乗できるようになりました。乗馬スタッフも腰を傷める心配がなくなりました。

せつかくの交流の機会を楽しさで満喫させたいと、乗馬会には、ひき馬、障がい者乗馬の他に、ふれあい動物園、フリーマーケット、ミニ屋台、お昼のライブ、キッズのためのプレイコーナー・・・などが取り入れられています。10月の乗馬会は「こま祭」と呼び、動物と共生できる幸せを願う催しにしています。この時には特別に、長野県佐久市春日の「わら馬会」が参加し、郷土民芸品のわら馬制作や、農作物を販売します。また、甲州和式馬術「巴組」が平家物語で知られる巴御前のように美しく凛々しい武術を披露します。

私たちが使う動物は、いろいろな経験を経て到達したものです。馬は性格が温厚で、サポートしやすい木曾馬を紅葉台木曾馬牧場から借りています。これはブッシュ元アメリカ大統領来日の折、お披露目のための流鏑馬に使われた馬たちです。ふれあい動物は、川崎の福田牧場からやってきます。福田牧場では、動物を傷つけないよう、いろいろな工夫を施している上、交代要員が用意されていて安心です。

乗馬のシステムは、イギリスやオーストラリアで行われている RDA 方式を応用しています。それは、馬、馬場責任者、リーダー、サイドウォーカーの協力で行われます。

この多摩川乗馬会の運営は、小学生からシルバーまで、大勢の方々の協力で行われています。障がい者も屋台や受付、アンケートなどでボランティアとして参加しています。馬場と草刈りや搬入搬出、屋台などの裏方には有償ボランティアがピーターとして加わっています。今では市民祭のように数千人が集う乗馬会に育ってきました。これからもますます工夫を重ね、大勢の方々に愛される多摩川乗馬会にしていきたいと願っています。